

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
1. 使命と学修成果	1. 1使命	判定 : 適合

改善のための助言

・富山大学医学部のディプロマポリシーと、卒業時に学生が身につけておくべき専門的実践力(コンピテンシー)との整合性が十分にはとれておらず、コンピテンシーを明示して教育を実践すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<p>コンピテンシーの策定状況;</p> <p>(1) 3ポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)の策定:平成29年6月22日の富山大学教育研究評議会で富山大学新3ポリシーが審議され承認された。(資料1)</p> <p>(2) 専門的実践力(コンピテンシー)策定状況: 分野別評価審査時に「暫定版コンピテンシー」を既に作成していた。確定版コンピテンシー策定作業計画案は、医師キャリアパス創造センターが主体となって準備を行っている。平成29年4月21日の教務委員会、4月26日の医学科運営会議において、「医学教育モデル・コア・コンピテンシー」に準拠した「富山大学医学教育コンピテンシー」を策定することが了承された。(資料2)、(資料3)</p> <p>(3) 平成28年度改訂の医学教育モデル・コア・カリキュラムとコンピテンシー策定との調整: 平成29年5月以降、シラバス及び授業内容と医学教育モデル・コア・コンピテンシーとの整合性を個々に検討しており、その経過中で明らかとなる本学独自の授業内容を富山大学医学部独自のコンピテンシーの策定資料となるように医師キャリアパス創造センターで調整おり、本結果の一部を第4回FDで情報共有している。(資料4)、(資料5)</p> <p>(4) プレ臨床実習期間に学生に、モデル・コア・コンピテンシーを概説し、本学医学科コンピテンシーを各々が考える機会を創出した。(資料6)</p>	<p>(1) H30年度内に、富山大学医学部の独自教育内容を反映した富山大学医学教育コア・コンピテンシー最終版を作成し、医学科教務委員会と医学科運営会議で審議し策定する。</p> <p>(2) 平成30年度第一回FDではJACMEによる分野別評価の最終結果を、第二回FDでは本学に特徴的なコンピテンシーの策定に関する情報を共有する。</p>	<p>資料1: 富山大学新3ポリシー、平成29年度第3回教育研究評議会議事要録(H29.6.22)</p> <p>資料2: 平成29年度第1回医学科教務委員会議事録(H29.4.21)及び、コンピテンシー資料</p> <p>資料3: 第1回医学部医学科運営会議議事要録(H29.4.26)</p> <p>資料4: 平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料: 授業用プリント提供のお願い</p> <p>資料5: 平成29年度第4回医学部医学科FD“インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)</p> <p>資料6: 平成29年度プレ臨床実習”4年生が考える素敵で社会から求められる医師とは?”、平成29年度プレ臨床実習日程表</p>
H30 (2018)	<p>(1)ディプロマポリシーとの乖離の無い医学科コンピテンシーを定めた。(資料1)</p> <p>(2)平成30年度第一回FDではJACMEによる分野別評価の最終結果を、第三回FDでは本学に特徴的なコンピテンシーの策定に関する情報を共有した。(資料2)、(資料3)</p>	<p>(1)策定された医学科コンピテンシーを基軸とした教育の実践を継続する。(終了)</p>	<p>資料1: 平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27)</p> <p>資料2: 平成30年度第一回医学科FD“富山大学医学部分野別評価報告書に基づく卒前教育の改善計画”(ポスター)(H30.7.6)</p> <p>資料3: 平成30年度第三回医学科FD“コンピテンシーを策定する”(ポスター)(H31.2.6)</p>

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
1. 使命と学修成果	1. 2大学の自律性および教員・研究の自由	判定 : 部分的適合

改善のための助言

・学生の意見を取り入れる検討がされているが、教員、学生ならびに幅広い教育関係者が参画して、富山大学医学部の使命としての卒業時に求められる能力(コンピテンシー)を定めるべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1)カリキュラム策定に関して学生の意見を取り入れるための「カリキュラム委員会」を開催した。(資料7) (2)コンピテンシー策定に関連するFDを開催した。(資料5) (3)本学卒業生に対して、医学部長が富山大学医学部同窓会報にコンピテンシーの策定に資するために卒業生の意見を募ることを寄稿した。(資料8) (4)プレ臨床実習期間においてモデルコアコンピテンシー及び、卒業時における到達すべきコンピテンシーを学生が考える機会を創出した。(資料6)	(1)主として学生を委員とする「カリキュラム検討委員会」を継続して開催する。その委員会で、コンピテンシー策定状況を報告し、学生からの意見も聴取することを検討する。 (2)FDを開催し、教員の意見を反映したコンピテンシーを策定する。 (3)コンピテンシーに対して幅広い教育の関係者からパブリックコメントを求める。	資料7:平成29年度第1回医学部医学科カリキュラム委員会(H30.3.15)次第、議事要録、資料 資料5:平成29年度第4回医学部医学科FD“インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7) 資料8:「本学医学教育改善のため医学教育分野別評価を受審して思うこと。同窓会員の皆様へのお願い」富山大学医学部同窓会報(27号2018)北島勲医学部長 資料6:平成29年度プレ臨床実習”4年生が考える素敵で社会から求められる医師とは?”、平成29年度プレ臨床実習日程表
H30 (2018)	(1)医学科コンピテンシーを、FD等を介して、教員、職員、学生の意見を取り入れながら策定した。(資料1)、(資料3)	(1)策定された医学科コンピテンシーを基軸とした教育の実践を継続する。(終了)	資料1:平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27) 資料3:平成30年度第三回医学科FD“コンピテンシーを策定する”(ポスター)(H31.2.6)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
1. 使命と学修成果	1. 2大学の自律性および教員・研究の自由	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

「医師キャリアパス創造センター」を設置し、教員、学生、その他広い範囲の教育関係者からの意見を聴取するための体制を構築しており、今後実質的な活動を行うことが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 医師キャリアパス創造センターは、医学部内外の関連団体との関係を強化し、教育活動の実質化を強化してきた。特に富山県とは、地域医療支援のための寄附講座設置申請要請に関して、厚生部医務課との意見交換を集中的に行い、平成29年4月より富山県寄附講座「地域医療総合支援学講座」の附属病院内設置に尽力した。医学教育の充実と支援の取り組みとして、毎年特別枠入学生及び医学部長と富山県知事との懇談会を実施している。(資料9)、(資料12) (2) 医師キャリアパス創造センターは医学科教務委員会やカリキュラム委員会、臨床教育医長会、臨床研修部(卒後臨床研修センター、専門医養成支援センター)と連携し、節目となるそれぞれのステージを管理する組織間の情報の共有をした。(資料7)、(資料10)、(資料11)	医師キャリアパス創造センターは今年度の活動を継続し、さらに活動範囲を拡張する。すなわち、 (1) 卒後臨床研修センターと協同し、卒業生対象の卒前教育のアンケートを実施しセンターの教育部門へ結果をフィードバックする。 (2) 医師キャリアパス創造センターが主催する臨床教育医長会では、臨床実習指導者からの意見を集約し教育部門へフィードバックする。 (3) 平成30年度FDにおいて卒前教育の教職員間の情報共有を継続する。 (4) 医師キャリアパス創造センターが学外の実習協力病院との情報交換を促進する。 (5) 地域医療総合支援学講座とは継続して、学生の成長状況に関する情報を共有する。	資料7: 資料7: 平成29年度第1回医学部医学科カリキュラム委員会(H30.3.15)次第、議事要録、資料 資料9: 医師キャリアパス創造センター組織図 資料10: 平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22) 資料11: 臨床研修部名簿 資料12: 平成30年度富山大学医学部医学科特別枠入学生激励会の開催について(H30.3.27)
H30 (2018)	(1) 医師キャリアパス創造センターは策定された富山大学医学部医学科コンピテンシー及び、初期臨床研修コンピテンシーに基づき、卒前・卒後のシームレスな教育の機会を提供している。(資料1)	(1) 医師キャリアパス創造センターは広く活動をしているが、卒前・卒後の各教育担当部署との強固な連携を基にさらに活発な活動内容を継続する。(終了)	資料1: 平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
1. 使命と学修成果	1. 4使命と成果策定への参画	判定 : 部分的適合

改善のための助言

- ・ディプロマ・ポリシーと整合性のあるコンピテンシーの確定版を策定し、明示すべきである。
- ・教育成果を評価できるコンピテンシーを確定し、学修を促進すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<p>(1) 3ポリシー(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)の策定:平成29年6月22日の富山大学教育研究評議会で富山大学新3ポリシーが審議され承認された。(資料1)</p> <p>(2) コンピテンシー策定状況:確定版コンピテンシー策定作業計画案は、医師キャリアパス創造センターが主体となって準備を行っており、「医学教育モデル・コア・コンピテンシー」に準拠した「富山大学医学教育コンピテンシー」に暫定版コンピテンシーから改訂することが決定した。また、同センターが主体となって、シラバス及び授業内容から、本学独自の授業内容を確認し、富山大学医学部独自のコンピテンシーの策定資料となるように調整している。本結果の一部は第4回FDで情報共有している。(資料2)、(資料3)、(資料4)、(資料5)</p> <p>(3) プレ臨床実習期間に学生に、モデル・コア・コンピテンシーを概説し、本学医学部卒業時における到達すべきコンピテンシーを考える機会を創出した。(資料6)</p>	<p>(1) 平成30年度内に、富山大学医学部の独自教育内容を反映した富山大学医学教育コア・コンピテンシー最終版を作成し、医学科教務委員会と医学科運営会議で審議し策定する。</p> <p>(2) 平成30年度第一回FDで日本医学教育評価機構による分野別評価の最終結果を公表しコンピテンシー策定に関する情報を、第二回FDではコンピテンシー策定の具体的な内容に関する情報をそれぞれ共有し、コンピテンシー策定に学生を含めより多くの関係者が関与するようにする。</p>	<p>資料1: 富山大学新3ポリシー、平成29年度第3回教育研究評議会議事要録(H29.6.22)</p> <p>資料2: 平成29年度第1回医学科教務委員会議事録(H29.4.21)及び、コンピテンシー資料</p> <p>資料3: 第1回医学部医学科運営会議議事要録(H29.4.26)</p> <p>資料4: 平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料: 授業用プリント提供のお願い</p> <p>資料5: 平成29年度第4回医学部医学科FD“インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)</p> <p>資料6: 平成29年度プレ臨床実習”4年生が考える素敵で社会から求められる医師とは?”、平成29年度プレ臨床実習日程表</p>
H30 (2018)	<p>(1)ディプロマポリシーとの乖離の無い医学科コンピテンシーを策定した。(資料1)</p>	<p>(1)策定された医学科コンピテンシーを基軸とした教育の実践を継続する。(終了)</p>	<p>資料1: 平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27)</p>

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
1. 使命と学修成果	1. 4使命と成果策定への参画	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

新たに設置した医師キャリアパス創造センターで卒業時教育成果と卒後研修終了時達成度の関連性を解析する計画があり、実質的な活動が期待される。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	医師キャリアパス創造センターでは成績の情報等の収集に努め、解析を進めている。(資料5)	卒業時教育成果と卒後研修終了時達成度の関連性を解析する計画については卒後臨床研修センターと協同しIR活動をすすめていく。	資料5: 平成29年度第4回医学部医学科FD“インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)
H30 (2018)	(1) 医師キャリアパス創造センターでは成績の情報等の収集に努め、解析を進めている。(資料4) (2) 医学部同窓会報で、卒業生に卒前教育に関する意見を広く求める予定である旨を掲載した。(資料4)	卒業時教育成果と卒後研修終了時達成度の関連性を解析する計画については医師キャリアパス創造センターの機能を高め、卒後臨床研修センター、専門医養成支援センターと協働しIR活動をすすめていく。	資料4: 富山大学医学部同窓会報(2019. 第28号)34ページ
H31 (2019)	医師キャリアパス創造センターの三部門の会議議事録を供覧し、行事、シミュレーター利用カレンダーの共有を行い協働が可能となるシステム構築を行った。(資料1), (資料2)	医師キャリアパス創造センターが卒後臨床研修センター、専門医養成支援センターと協働しIR活動をすすめていく。	資料1: 医師キャリアパス創造センター三部門の会議議事録 資料2: 医師キャリアパス創造センター三部門の行事、シミュレーター共有カレンダー

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
2. 教育プログラム	2. 1プログラムの構成	判定 : 適合

改善のための助言

- カリキュラム構築に際し、受け身の学習を少なくし能動的な学習を積極的に取り入れ、自己学習能力を養う機会を増やすべきである。
- 双方向的な教育を取り入れる科目が増加してきているが、さらに講義法を改善し、学生が積極的に参加し、学修成果を高めるようにすべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 4年次に開設される統合型能動学修科目(「臨床医学統合」)についての規則整備を行うとともに今年度は3年次にトライアルを実施し、準備と課題の把握を行った。(資料13)、(資料18) (2) 能動的学修に関するFDを開催し教員間の情報共有に努めた。(資料14)	(1) 各授業内へのTBL形式教育の導入を促進させるために指導者への教育を行うが、H30年度消化器コアカリキュラムでTBLを導入する予定となっている。 (2) 「臨床医学統合」をトライアル継続実施し、開設の準備と課題の洗い出しを進める。 (3) 学内の授業改善の取り組みを共有する方法をさらに検討する。	資料13: 臨床医学統合授業リハーサル参加へのご依頼、グループ学習について 資料18: グループ学習について、2018年グループ学習日程表 資料14: 平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7)
H30 (2018)	(1) 統合型能動学修科目「臨床医学統合」を3年次、4年次に試験的に開講し、令和2年度の正式開講に備えて課題の把握を行った。(資料5)、(資料6) (2) 準備が整った科目からTBL教育を導入した。(資料7) (3) 能動的学修を広く推進することを目的に平成30年度第二回FDを開催した。(資料8)	(1) 能動的学修をさらに広く取り入れるために、シミュレーター教育などの体系的なしくみを検討する。	資料5: 富山大学医学部規則 別表第1~4 資料6: 臨床医学統合グループ学修日程、内容 資料7: 第三内科TBLシラバス 資料8: 平成30年度第二回医学科FD“Active learning”(ポスター)(H30.11.20)
H31 (2019)	(1) 3年次、4年次に試験的に開講した統合型能動学修科目「臨床医学統合」を継続し、令和2年度の正式開講に備えた課題の把握を継続している。(資料3) (2) 臨床実習前から選択制臨床実習までの複数回のシミュレーション実習を開催している。(資料4)、(資料5)	今後も、能動的学修を推進する。(終了)	資料3: 富山大学医学部規則 別表第2~3 医学部医学科専門教育科目年次別配当 資料4: 2019年プレ臨床実習カリキュラム 資料5: 2019年選択制臨床実習中シミュレーション実習プログラム

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 1プログラムの構成	判定 : 適合

改善のための示唆

・ Moodleを利用したe-Learningを活用するなど、双方向的な授業に改善するなどの教育改善が行われているが、さらに学生の能動的な学習を推進することが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> ・能動的学修の取り組み グループ学修用のセミナールームが新設され、利用が促進されている。(資料15) ・一方向的な授業の改善の取り組み Moodle のコース数は、教養29コース、専門78コース[2017年3月現在]から、教養12コース、専門45コース、共有コース7[2018/04現在]となった。 ・学外から、ICTを活用してシミュレーション形式の学習を行うコンテンツを作成し、「医学生シミュレーション練習会」として、月一回ペースで継続開催され、年間128名の医学生が利用した。(資料16) ・講義室のWi-Fi機器が増強され、全講義室で使用可能となった。 ・学長裁量経費にてデジタル教科書9タイトル(17アクセス権)を購入し、図書館予算にて、DynaMed Plusが購入され、自宅PCや個人デジタル端末から医学情報を取得する環境が改善した。(資料17) ・グループ学習TBLにおいてもMoodleを利用したe-learningを活用している。(資料18) ・4年次に開設される統合型能動学修課目(「臨床医学統合」)についての規則整備を行うとともに今年度は3年次にトライアルを実施し、準備と課題の把握を行った。(資料13) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の能動的学修を促進する試みの結果を解析し、本学医学部の使命に沿った授業プログラムを開発すると共に、継続して学内の授業改善の取り組み推進を図る。 ・能動的授業数等のモニタリングを実施するためのシステムを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料13: 臨床医学統合授業リハーサル参加へのご依頼、グループ学習について 資料15: 平成29年度医業イノベーションセンター・セミナールーム使用状況 資料16: 2017年度医学生シミュレーション練習会出席まとめ、開催ポスター第5回(H29.4.18)、第6回(H29.5.18)、第7回(H29.6.20)、第8回病院ハンズオンセミナー内(H29.7.1)、第9回(H29.9.4)、第10回(H29.10.10)、第11回(H29.11.15)、第12回(H29.12.18)、第13回(H30.1.19)、第14回(H30.2.13)、第15回(H30.3.15) 資料17: 2017年度購入電子ブックリスト 資料18: グループ学習について、2018年グループ学習日程表
H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 前年度整備した取り組みを継続した。(資料5) (2) 統合型能動学修課目「臨床医学統合」を3年次、4年次に試験的に開講し、正式に開講される令和2年度に備えて課題の把握を行った。(資料5)、(資料6) (3) 能動的学修を広く推進することを目的に平成30年度第二回FDを開催した。(資料8) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 能動的授業を把握するためのモニタリングシステムの整備の方法を引き続き検討する。 (2) シミュレーター訓練室を自主的に利用できる体系的な管理について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料5: 富山大学医学部規則 別表第1~4 資料6: 臨床医学統合グループ学修日程、内容 資料8: 平成30年度第二回医学科FD“Active learning”(ポスター)(H30.11.20)
H31 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 3年次、4年次に試験的に開講した統合型能動学修課目「臨床医学統合」を継続し、令和2年度の正式開講に備えた課題の把握を継続している。(資料3) (2) 臨床実習前から選択制臨床実習までの複数回のシミュレーション実習を開催している。(資料4)、(資料5) (3) 部局長リーダーシップ支援経費「学部プロジェクト推進経費」にて、医療系学生のシミュレーター学修の推進プロジェクトを実施した。(資料6) 	<p>今後も、能動的学修を推進する。(終了)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料3: 富山大学医学部規則 別表第2~3 医学部医学科専門教育科目年次別配当 資料4: 2019年プレ臨床実習カリキュラム 資料5: 2019年選択制臨床実習中シミュレーション実習プログラム 資料6: 部局長リーダーシップ支援経費「学部プロジェクト推進経費」成果報告書

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 2科学的方法	判定 : 適合

改善のための示唆

- 和漢医薬学は学生・研修医が自ら学んでいることも多く、より系統立てた教育の提供が望まれる。
- 和漢医薬学の教育、認知情動脳科学の教育について卒業生などから評価・検証を受けることが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション練習会で和漢診療のシナリオ課題を作成し実施し、プレ臨床実習では、同様の和漢診療のシナリオ課題を実施した。(資料19) ・4年次における新規実施科目「医学薬学史」「神経・脳科学」の開講を準備した。(資料20) 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師キャリアパス創造センターの臨床研修部門と協働し、卒業生による、和漢医薬学や認知情動脳科学の卒前教育に関する意識調査を検討する ・卒業生によるアンケートを和漢医薬学・認知情動脳科学の教育を含む医学科の改善に生かす方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料19:平成29年度 第7回医学生シミュレーション練習会ポスター、症例課題 資料20:富山大学医学部規則(別表第1~4付き)
H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 卒業生などからの意見を継続して聴取する方策として、医学部同窓会と協働して、卒業生に対し、和漢医薬学や認知情動脳科学の教育を含めた卒前教育に対するアンケート調査を実施する予定である旨を卒業生に周知した。(資料4) (2) 和漢医薬学に関する系統立てた教育プログラムの実践を試みた。(資料9)、(資料10) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 卒業生などからの評価をアンケートから取得、検証し、授業改善に役立てる。 (2) 和漢医薬学のより系統立てた教育プログラムの構築を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料4:富山大学医学部同窓会報(2019. 第28号)34ページ 資料9:平成30年度プレ臨床実習シミュレーション補講“和漢薬シナリオ” 資料10:漢方医学教育研究助成報告書
H31 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 和漢医薬学に関する系統立てた教育プログラムの実践を報告した。(資料7) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全学実施の卒業生アンケートなどからの評価を取得、検証し、授業改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料7:Nogami T, Fujimoto M, Watari H, Takamura A, Mihara H, Kimbara Y, Shibahara N, Shimada Y: Development of a Self-Assessment Questionnaire for Kampo Medical Knowledge and Skills: An Evaluation of Medical Students before and after Clinical Clerkship. International Medical Journal 27,83-87,2020

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
2. 教育プログラム	2. 3基礎医学	判定 : 適合

改善のための助言

・教育内容の重複・不足・偏りがあり、教育プログラムを基礎医学教員、臨床医学教員が十分に協議して、教育プログラムを開発すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医師キャリアパス創造センターで資料を解析し、医学科FDでその内容を共有した。(資料4)、(資料5)	・教育内容の把握とその結果を生かして、偏りの無いカリキュラムを作る方法を検討する。	資料4:平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料:授業用プリント提供のお願い 資料5:平成29年度第4回医学部医学科FD”インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)
H30 (2018)	(1) 昨年度調査した教育内容の重複・不足・偏りをもとに各授業内容の改善を個々に行った。(資料11)	(1) 教育内容の把握調査を継続し、教育プログラムの継続的な改善を図る。	資料11:各ユニットのコンピテンシー対応表
H31 (2019)	(1) 全国統一国家試験模試の解析結果を教務委員会、医学科運営会議で共有することで、教育内容の重複・不足・偏りの改善を個々に行った。(資料8) (2) 臨床実習中の経験症候、疾患、医行為を解析し、臨床教育医長会で共有することで、教育内容の重複・不足・偏りの改善を個々に行った。(資料9)	今後も、教育プログラムの継続的な改善を図る。(終了)	資料8:全国統一国家試験模試の解析結果 資料9:臨床実習中の経験症候、疾患、医行為の解析結果

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 3基礎医学	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

・「現在と将来に社会および医療で必要となること」の教育を組織だてて行うことが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医師キャリアパス創造センターの業務の実質化を図り、様々な教育担当部署と協働しシームレスな教育プログラムの改善が実施できるシステムを整備した。(資料9)、(資料10)、(資料11)、(資料14)、(資料21)	(1) 医師キャリアパス創造センターによる授業内容の重複・欠落チェックの過程で、「現在と将来に社会および医療で必要となること」に該当する内容を調査し、「現在と将来に社会および医療で必要となること」をテーマとする授業の体系的な整備に努める。	資料9: 医師キャリアパス創造センター組織図 資料10: 平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22) 資料11: 臨床研修部名簿 資料14: 平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7) 資料21: 同窓会職掌分担
H30 (2018)	(1) 医学科コンピテンシーを策定した。(資料1)	(1) 策定されたコンピテンシーをもとに、社会からのニーズを基盤とする授業の体系的な整備を検討する。	資料1: 平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27)
H31 (2019)	(1) 医学科コンピテンシーにもとづく教育を実施した。(資料10)	組織においてコンピテンシーを適宜見直しをする。(終了)	資料10: 令和元年度第2回医学科FDポスター(R1.10.4)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
2. 教育プログラム	2. 4行動科学と社会医学, 医療倫理学と医療法学	判定 : 適合

改善のための助言

・教育内容の重複などを解消し、より組織だった教育に改良すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医師キャリアパス創造センターで資料を解析し、医学科FDでその内容を共有した。(資料4)、(資料5)	・今後も定期的に教育内容を把握し、結果を共有することで教育の改良に努める。	資料4:平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料:授業用プリント提供のお願い 資料5:平成29年度第4回医学部医学科FD”インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)
H30 (2018)	(1)昨年度調査した教育内容の重複・不足・偏りをもとに各授業内容の改善を個々に行った。(資料11)	(1)教育内容の把握の調査を継続し、教育プログラムの継続的な改善を図る。	資料11:各ユニットのコンピテンシー対応表
H31 (2019)	(1)コンピテンシー対応表をもとに各ユニットの教育内容を調整した。(資料11)	今後も、教育プログラムの継続的な改善を図る。(終了)	資料11:各ユニットのコンピテンシー対応表

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 4行動科学と社会医学, 医療倫理学と医療法学	判定 : 適合

改善のための示唆

富山県に特徴的な環境、文化などに根ざした医療についての教育が望まれる。特色ある「富山医療学」の新設を計画しており、成果が期待される。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・カリキュラムマップと科目ナンバリングを作成し、「富山医療学」の位置付けを明確にし、開講の準備を行った。(資料22)、(資料20)	・「富山医療学」の具体的な授業計画を作成する。	資料22: 富山大学医学部医学科カリキュラムマップ(平成30年度入学者用) 資料20: 富山大学医学部規則(別表第1～4付き)
H30 (2018)	(1)「富山医療学」を開講した。(資料12)	(1)今後も富山県に特徴的な医療に関する教育の計画を随時検討し、カリキュラムに反映するよう努める。	資料12: 富山医療学シラバス
H31 (2019)	(1)「富山医療学」について授業評価を行った。(資料12)	今後も富山県の保健や医療に焦点を当てた「富山医療学」を継続するとともに適宜内容を見直す。(終了)	資料12: H30年度後期授業アンケートIR結果

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
2. 教育プログラム	2. 5臨床医学と技能	判定 : 部分的適合

改善のための助言

・臨床実習でのコンピテンシーを定め、知識だけでなく、態度・技能を確実に修得できるよう、内科、外科、精神科、総合診療科、産婦人科、小児科といった重要な診療科で診療参加型臨床実習を充実し、十分な種類と数の症例について学修機会を設けるべきである。内科、産婦人科・小児科など外形的には長い期間の実習であっても、その中でローテートしたりして実質的な参加型になっていないものもあり改善すべきである。
・MoodleでのMini-CEXの結果の登録を計画しており、臨床実習の評価に活用して学修成果を向上させるべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1)コンピテンシー作成までの工程を定めて、準備と作業を進めた。(資料2)、(資料3) (2)医師キャリアパス創造センター医学教育部門において、臨床実習で経験した症候、疾患、実施・見学した医行為の解析を学年毎に2~3回実施し、その都度、学生、診療科にフィードバックを行っており、シミュレーション形式の経験も含め、十分な種類と数の症例について学修機会を設けられるよう体系的な改善につなげている。(資料10)	(1)医学科教務委員会においてコンピテンシー作成のためのワーキンググループを作り、具体的な作業を進める。 (2)準備の整った診療科からmini-CEXを予定する。	資料2:平成29年度第1回医学科教務委員会議事録(H29.4.21)及び、コンピテンシー資料 資料3:第1回医学部医学科運営会議議事要録(H29.4.26) 資料10:平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22)
H30 (2018)	(1)医学科コンピテンシーを策定し、臨床実習でのコンピテンシーを明確化した。(資料1) (2)mini-CEXは準備の整った第三内科から開始した。(資料13)	(1)mini-CEXの課題の抽出と多くの診療科で円滑に実施するための方策を医師キャリアパス創造センターと臨床医長会が中心となって検討し、次年度にFDを計画する。	資料1:平成30年度第11回医学部医学科運営会議議事要録(H31.2.27) 資料13:臨床医長会 第三内科mini-CEX報告
H31 (2019)	(1)mini-CEXを多くの診療科で円滑に実施するためのFDを実施した。(資料10)、(資料13) (2)臨床実習中の経験症候、疾患、医行為を解析し、学生及び、各診療科にフィードバックを行うことで、十分な学修機会が設けられるようにしている。(資料9)、(資料13)	mini-CEXをより多くの診療科で実施できるように準備を進める。	資料9:臨床実習中の経験症候、疾患、医行為の解析結果 資料10:令和元年度第2回医学科FDポスター(R1.10.4) 資料13:第2回医学科FD コンピテンシーを評価する(mini-CEX)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 5臨床医学と技能	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

1年次の介護実習だけでなく、低学年から継続的な患者との接触を伴う学修機会をつくり、患者と接触する学修機会が全教育期間の3分の1以上となることが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・1年次の介護体験実習、2年次のしらゆり会総会(慰霊祭)、3年次の基礎研究体験実習、4年次の社会医学実習、4年次後期以降の臨床実習等において患者と接触する機会が確保されている。 (資料20)	・授業科目の中で患者に接する機会の創出を検討し継続的な接触の機会を模索する。	資料20: 富山大学医学部規則(別表第1~4付き)
H30 (2018)	(1)1年次の介護体験実習、2、3、6年次のしらゆり会総会(慰霊祭)、3年次の基礎研究体験実習の一部、4年次の社会医学実習、4年次後期以降の臨床実習等において患者と接触する機会が確保されている。(資料5)	(1)授業科目の中で患者に接する機会の創出を検討し継続的な接触の機会を模索する。	資料5: 富山大学医学部規則 別表第1~4
H31 (2019)	(1)1年次の介護体験実習、2、3、6年次のしらゆり会総会(慰霊祭)、3年次の基礎研究体験実習の一部、4年次の社会医学実習、4年次後期以降の臨床実習等において患者と接触する機会が確保されている。(資料3) (2)分野別評価に対応した臨床実習期間の延長により、患者と接触する学習期間の合計がおおむね全教育期間の3分の1となった。	患者と接触する学習期間の合計がおおむね全教育期間の3分の1となった。(終了)	資料3: 富山大学医学部規則 別表第2~3 医学部医学科専門教育科目年次別配当

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
2. 教育プログラム	2. 6プログラムの構造、構成と教育期間	判定 : 適合

改善のための助言

医学教育モデル・コア・カリキュラムと大学独自の教育のバランスを明確にすべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医師キャリアパス創造センターで授業内容の重複と欠落を解析し、医学科FDでその内容を共有した。(資料4)、(資料5)	・定期的に教育内容の把握をして、結果をフィードバックし、大学独自の教育内容のバランスを検討する。	資料4:平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料:授業用プリント提供のお願い 資料5:平成29年度第4回医学部医学科FD”インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)
H30 (2018)	(1) 昨年度調査した教育内容の重複・不足・偏りをもとに各授業内容の改善を個々に行った。(資料11)	(1) 定期的に教育内容の把握をして、結果をフィードバックし、大学独自の教育内容のバランスを検討する。	資料11:各ユニットのコンピテンシー対応表
H31 (2019)	策定したコンピテンシーをもとに教育を実施した。(資料11)	コンピテンシー対応表を活用しながら、モデルコアカリキュラムや大学独自の教育について適宜見直していく。(終了)	資料11:各ユニットのコンピテンシー対応表

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 6プログラムの構造、構成と教育期間	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

より広い分野での統合教育をさらに推進することが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・4年次に開設される予定の統合型能動学修科目(「臨床医学統合」)についての規則整備を行うとともに、トライアルを実施し、準備と課題の把握を行った。(資料13)、(資料18)	・組織だって統合教育の改良を行う継続的な方法を検討する。	資料13:臨床医学統合授業 リハーサル参加へのご依頼、グループ学習について 資料18:グループ学習について、2018年グループ学習日程表
H30 (2018)	(1) 統合型能動学修科目「臨床医学統合」を3年次、4年次に実施し、正式に開講される来年度に備えて課題の把握を行った。(資料6) (2) 臨床推論、医行為の実施を統合的に訓練、評価するシミュレーション補講をプレ臨床実習内で実施した。(資料14)	(1) 統合教育をさらに広く取り入れるための体系的なしくみを検討する。 (2) 臨床推論、医行為の実施を統合的に訓練、評価するシミュレーション補講を臨床実習後にも実施を検討する。	資料6:臨床医学統合グループ学修日程、内容 資料14:プレ臨床実習のシミュレーション補講
H31 (2019)	(1) 統合型能動学修科目「臨床医学統合」を3年次、4年次に実施した。(資料3) (2) 臨床推論、医行為の実施を統合的に訓練、評価するシミュレーション実習をプレ臨床実習と臨床実習後にも実施した。(資料14) (3) 臨床教育医長会が臨床実習後OSCE委員会を兼ねることとなり、各診療科で統合教育を推進する準備を行った。(資料23)	今後も、統合教育の推進を図る。(終了)	資料3:富山大学医学部規則 別表第2～3 医学部医学科専門教育科目年次別配当 資料14:臨床実習後シミュレーション補講日程、内容 資料23:平成31年度臨床教育医長会次第

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 7プログラム管理	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

他の教育関係者の代表がカリキュラム委員会に参加することが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	他の教育の関係者の参加はまだ行われていない。	他の教育の関係者のカリキュラム委員会への参画を検討する。	
H30 (2018)	他の教育の関係者が構成員となるようカリキュラム委員会の規約改正を行った。(資料15)	他の教育関係者の選任を行う。	資料15: 富山大学医学部医学科カリキュラム委員会内規
H31 (2019)	他の教育関係者として、人間発達科学部(旧・教育学部)の教員を構成員とし内諾を得た。しかし新型コロナウイルスの影響により今年度は開催はされていない。	人間の発達や教育の専門家の意見も参考に、今後もカリキュラムの改善を図るため、カリキュラム委員会を開催し、構成員についての承認手続きを得る予定。	

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
2. 教育プログラム	2. 8臨床実践と医療制度の連携	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

卒業生の情報を地域や社会から取得して、それを教育プログラム改革につなげるシステムの構築が望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医学部長が医学部同窓会報で同窓生に卒業生の情報提供を依頼した。 (資料8)	・医師キャリアパス創造センターの臨床研修部門と協働して、卒業生の情報を収集する手段や教育プログラムの改善に生かす方法を検討する。	資料8:「本学医学教育改善のため医学教育分野別評価を受審して思うこと。同窓会員の皆様へのご願い」富山大学医学部同窓会報(27号2018)北島勲医学部長
H30 (2018)	(1) 医学部同窓会と協働し、同窓会報で卒業生からの情報提供を依頼する旨を掲載した。(資料4)	(1) 医師キャリアパス創造センターの臨床研修部門や医学部同窓会と引き続き協働して、卒業生の情報を収集する手段や教育プログラムの改善に生かす方法を検討する。	資料4:富山大学医学部同窓会報(2019. 第28号)34ページ
H31 (2019)	(1) 医師キャリアパス創造センターの臨床研修部門や卒前医学教育部門が情報共有する仕組みを構築した。(資料1), (資料2)	医師キャリアパス創造センターの各部門が協働して、全学の卒業生アンケート結果の情報を参考に、教育プログラムの改善に生かす方法を検討する。	資料1:医師キャリアパス創造センター三部門の会議議事録 資料2:医師キャリアパス創造センター三部門の行事、シミュレーター共有カレンダー

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
3. 学生評価	3. 1 評価方法	判定 : 適合

改善のための助言

・追再試験の実施方針について、科目ごとにシラバスに明記すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・全学で富山大学授業に関する要項が制定されたが、医学部で従来使用してきた‘再試験’の定義が異なることもあり、その実施回数を含めて検討することとなった。(資料23)	・従来医学部で使用してきた‘再試験’は‘再評価’という概念で原則一回実施する方向で現在検討が進められている。	資料23: 富山大学授業に関する要項(H29.7.18制定, H30.3.27改正)
H30 (2018)	(1) 従来医学部で使用してきた‘再試験’は‘再評価’という概念で原則一回実施することを了承した。(資料16)	(1) 科目ごとにシラバスに明記されているか継続して確認していく(終了)。	資料16: 平成30年度第3回医学部医学科運営会議議事録(H30.6.27)及び資料

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
3. 学生評価	3. 2評価と学修との関連	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

- ・評価結果の公正なフィードバックとして卒業試験を含む筆記試験において、成績と解説を学生に返すことが望まれる。
- ・統合的学習を促進するために学生評価の仕組みをさらに検討し改善につなげることが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 卒業試験の総合試験化に向けた方策を検討した。 (2) 従来同様に、内科卒業試験においては、試験内容を評価するために識別指数の解析を行い、試験担当者にフィードバックした。(資料24) (3) 統合的学習を推進するために現行の基礎統合授業に加え、臨床医学統合授業を整備するためMoodleを利用したグループ学習のトライアルが開始された。(資料13)、(資料18)	(1) 試験評価結果の公平なフィードバック方法に関して引き続き検討を進める。 (2) 知識を評価する卒業試験の内容と運用(特に総合試験の導入)につき検討を行う。 (3) 試験の解説と成績開示方法等の実施状況に関して調査する。 (4) 臨床医学統合授業の開講のための準備としてのグループ学習をさらに充実させ、学生、指導者へのフィードバックを繰り返し、学生評価の仕組みを検討する。	資料24:内科試験最終結果報告(H29.11.15) 資料13:臨床医学統合授業 リハーサル参加へのご依頼、グループ学習について 資料18:グループ学習について、2018年グループ学習日程表
H30 (2018)	(1) mini-CEXを複数の診療科で導入し、その都度、フィードバックを実施した。臨床実習中の自己/指導者評価を解析後、学年平均との比較と共にフィードバックした。(資料13) (2) グループ学習を継続し、学生、指導者からのフィードバックを繰り返し、学生評価の仕組みを検討した。(資料17) (3) 臨床実習後OSCEの結果の希望者へのフィードバックを実施した。(資料18(提出省略)) (4) 少人数の教員によるシミュレーション形式でピア評価できる教育コンテンツを構築し、実施した。(資料19)	(1) 試験評価結果の公平なフィードバック方法に関して引き続き検討を進める。 (2) 知識を評価する卒業試験の内容と運用につき検討を行う。 (3) 試験の解説と成績開示方法等の実施方法に関して調査する。 (4) グループ学習、少人数の教員によるシミュレーション形式でピア評価できる教育コンテンツを拡充し、統合的学修を促進し、統合的な能力を評価する仕組みを増加させていく。	資料13:臨床医長会 第三内科mini-CEX報告 資料17:臨床実習中の自己/指導者評価を解析後、学年平均との比較と共にフィードバックされた資料 資料18(提出省略):臨床実習後OSCEの結果がフィードバックされた資料 資料19:少人数の教員によるシミュレーション形式でピア評価できる教育コンテンツ
H31 (2019)	(1) mini-CEXのFDを実施し、実施する診療科が増加した。その都度、フィードバックがなされている。臨床実習中の自己/指導者評価を解析後、学年平均との比較と共にフィードバックしている。(資料15) (2) 臨床統合授業(グループ学習)を継続し、学生、指導者からのフィードバックを繰り返し、学生評価の仕組みを検討した。(資料16) (3) 臨床実習後OSCEの結果の希望者へのフィードバックを実施した。(資料17(提出省略)) (4) シミュレーション実習でのピア評価により、フィードバックがなされている。(資料18(提出省略))	(1) 試験評価結果の公平なフィードバック方法に関して引き続き検討を進める。 (2) 統合型卒業試験の内容と運用につき検討を継続する。 (3) グループ学習、シミュレーション実習での教育コンテンツをICT化かつ拡充させ、統合的学修を促進し、統合的な能力を評価する仕組みを増加させていく。	資料15:臨床医長会 mini-CEX報告 資料16:臨床実習中の自己/指導者評価を解析後、学年平均との比較と共にフィードバックされた資料 資料17(提出省略):臨床実習後OSCEの結果がフィードバックされた資料 資料18(提出省略):グループ学習、シミュレーション実習でのフィードバック

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
4. 学生	4. 1 入学方針と入学選抜	判定 : 適合

改善のための助言

従来は医学部長の諮問機関として位置づけられていた「医学部入試懇談会」だが、2016年6月からは正式な組織として「医学部入試委員会」が設置されており、入試改善について一層活発に議論されるべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・9回医学部入試委員会が開催され活発な議論がなされた。(資料25)	・入試改善に向けて活発な議論を今後も継続する(終了)。	資料25:平成29年度医学部入学試験委員会議事要録 第1回(H29.4.25)、第2回(H29.6.13)、第3回(H29.7.12)、第4回(H29.8.23)、第5回(H29.10.24)、第6回(H29.12.14)、第7回(H30.2.2)、第8回(H30.3.6)、第9回(H30.3.19)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
4. 学生	4. 1 入学方針と入学選抜	判定 : 適合

改善のための示唆

新たに設置された医学教育センターのIR機能を活用して、使命や教育成果に関連した選抜プロセスの見直し体制を充実することが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	卒前、卒後のシームレスな教育体制の整備を目的に、医学教育センターから発展的に医師キャリアパス創造センターが設立され、センター内のIRにより、医学教育指標の定点観測が継続して行われるシステムが構築できた。入学時の背景の相違と成績との相関などを解析し選抜プロセスの見直し体制を検討する準備が整った。(資料9)	富山大学医学のアドミッションポリシーに基づく選抜プロセスの検討をIR情報を基軸に整備していく。	資料9: 医師キャリアパス創造センター組織図
H30 (2018)	医師キャリアパス創造センターIR部門において、使命や教育成果に関連した選抜プロセス等の検討を開始した。(資料20)	IR情報をもとに選抜プロセス等の検討を今後進める。	資料20: 第1回(H30.12.25), 第2回(H31.3.25)地域枠等入試検討WG
H31 (2019)	医師キャリアパス創造センターIR部門において、IR機能を活用して使命や教育成果に関連した選抜プロセス等の見直しを行った。(資料19)	IR情報をもとに選抜プロセス等を検討し、入試改革を行った。(終了)	資料19: 抄録 第52回日本医学教育学会大会(2020.7月紙上発表) 演題名 臨床実習後OSCE成績の予見因子は何か

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
4. 学生	4. 3学生のカウンセリングと支援	判定 : 適合

改善のための助言

・学習上の問題を抱えた学生、体調不良や妊娠などで長期間のケアが必要になる学生について組織的に対応する体制をより充実させるべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	新設したアクセスビリティ・コミュニケーション支援室用相談室(ACルーム)は活発に利用されている。(資料26)	・臨床心理士の補充を計画するなど、今後も継続して学生のケアに対する改善を検討していく(終了)	資料26:アクセスビリティ・コミュニケーション支援室のACルーム利用について

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
5. 教員	5. 1 募集と選抜方針	判定 : 部分的適合

改善のための助言

富山大学医学部として求める教員の活動と教育に関する方針を明示し、多角度からの教員評価を一層充実させるべきである。
教職員が医学教育を十分理解し、教職協働を一層推進すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 教員業績評価システムを用いて、教員を教育、研究、社会貢献、大学運営の視点から多角的に評価した。また、年俸制適用職員については、標準化得点を算出して業績給昇給について判断した。(資料27)、(資料28) (2) 教職協働を一層推進するために、教員、職員、学生を対象としたFDを実施した。(資料14)	(1) 全学で人事・給与システム部会がスタートし、教員業績評価の在り方を検討する予定である。 (2) 今後もFDを開催し、教職協働を推進する	資料27: 教員業績評価システムマニュアル 資料28: 平成29年度第9回大学改革推進本部会議議事要録(H30.3.13) 資料14: 平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7)
H30 (2018)	(1) 教員業績評価システムを用いて、教員を教育、研究、社会貢献、大学運営の視点から多角的に評価した。また、年俸制適用職員については、標準化得点を算出して業績給昇給について判断した。(資料21) (2) 教職協働を一層推進するために、教員、職員、学生を対象としたFDを実施した。(資料2,3,8)	(1) 新年俸制の全学的導入にむけて、全学の委員会が、教員業績評価の在り方を検討する予定である。 (2) 今後もFDを開催し、教職協働を推進する。	資料21: 教員業績評価システムマニュアル 資料2, 3, 8: 平成30年度FDポスター(第1回, 第2回, 第3回)
H31 (2019)	(1) 教員業績評価システムを用いて、教育業務に対する評価を追加した(資料20) (2) 教職協働を一層推進するために、教員、職員を対象としたFDを実施した。(資料21) (3) 全学の教員業績評価委員会が、教育、研究、社会貢献の領域の教員業績の全学方針を大学戦略支援室(全学IR室)のIR結果をもとに策定した。(資料22(提出省略))	教員の活動に関して、教育、研究、社会貢献を軸にした教員評価が策定された。教職協働に関して、今後もFD等を活用して教員及び職員が相互に医学教育を理解し、教職協働を推進する。(終了)	資料20: 教員業績評価システムマニュアル 資料21: 第1, 2, 3, 4回FDポスター 資料22(提出省略): 教員業績評価委員会(全学)資料と議事録

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
5. 教員	5. 2教員の活動と能力開発	判定 : 適合

改善のための助言

・教育プログラムの実施にあたって、教員間の連携を図るべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 全ての教職員を対象としたFDを4回実施した。(資料14) (2) 医学教育センターは、卒後教育の担当部署である卒後臨床研修センターや専門医支援センターと共に医師キャリアパス創造センターに改組され教員間の連携を図っている。(資料11)、(資料29) (3) 臨床教育医長会で実習指導者と臨床実習に関する情報共有をはかっている。(資料10)	・今後も教員間の連携のための体制を維持する(終了)	資料14:平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7) 資料11:臨床研修部名簿 資料29:平成29年度医師キャリアパス創造センター医学教育部門運営会議資料 資料10:平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
5. 教員	5. 2教員の活動と能力開発	判定 : 適合

改善のための示唆

・学生の定員増に対応して、学内措置等による教員数の増加がさらに期待される。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・教員の人員配置に関する検討をする大学改革推進会議の部会の設置をした。(資料30)、(資料31)	・全学的な大学改革の一環として、各部局への人員配置の再検討を行う予定となっている。	資料30:平成29年度第10回部局長等懇談会資料(H30.1.11) 資料31:平成29年度第9,10回大学改革推進本部会議議事要録(H30.3.13、H30.3.27)
H30 (2018)	(1)大学改革推進本部人事給与システム部会が、各学部の標準教員に基づいた今後5年間の人件費ポイント計画を策定し、意思決定のプロセスにより機関決定がなされた。その結果、医学部は必要な教員数の教員配置に必要なポイントを付与されることになり、教員数の増加ができる状態となった。(資料22)	(1)必要な教員配置を今後も進める。(終了)	資料22:平成30年度第6回大学改革推進本部人事給与システム部会議事要録(H30.11.22)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
6. 教育資源	6. 1施設・設備	判定 : 適合

改善のための助言

・学生がグループ学習できる小グループ演習室が整備されてきているが、利便性や成果を検証しつつ定期的に学習環境を見直し整備すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 医薬イノベーションセンターに12部屋のグループ学習用の教室を整備し運用を開始し、利用実績をモニターしている。(資料15) (2) カリキュラム委員会では、教室の利便性等を学生に意見を求め改善点を定期的に検討している。(資料7)	・今後も継続的に適宜学習環境を見直す(終了)	資料15:平成29年度医薬イノベーションセンター・セミナールーム利用状況 資料7:平成29年度第1回医学部医学科カリキュラム委員会(H30.3.15)次第、議事要録、資料

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
6. 教育資源	6. 2臨床実習の資源	判定 : 部分的適合

改善のための助言

- ・教育成果を達するために学生が臨床実習で経験する症候・疾患を十分に確保すべきである。
- ・シミュレーション教育についての計画的なプログラム作成や実施をより充実させるべきである。
- ・クリニカルクラークシップ責任者および指導者の質を担保するための管理体制を確立すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1)シミュレーション教育を臨床実習後半に組み込んだプログラムを医師キャリアパス創造センターが主体となって作成した(資料)。これにより学生はより充実したシミュレーション演習を経験することが可能となった。 (2)クリニカルクラークシップ指導者が中心となる臨床教育医長に対する教育システムでは、医師キャリアパス創造センターが主催する臨床教育医長会を年に2回開催した。また、臨床教育医長に関わる規約を新たに制定した(資料)。これにより、クリニカルクラークシップ指導者の質の担保が強化された。	(1)クリニカルクラークシップ責任者の質の担保を目的とした、定期的なミーティングをキャリアパス創造センターが主催する。	資料10:平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22) 資料16:2017年度医学生シミュレーション練習会出席まとめ、開催ポスター第5回(H29.4.18)、第6回(H29.5.18)、第7回(H29.6.20)、第8回病院ハンズオンセミナー内(H29.7.1)、第9回(H29.9.4)、第10回(H29.10.10)、第11回(H29.11.15)、第12回(H29.12.18)、第13回(H30.1.19)、第14回(H30.2.13)、第15回(H30.3.15) 資料6:平成29年度プレ臨床実習“4年生が考える素敵で社会から求められる医師とは”?平成29年度プレ臨床実習日程表 資料32:平成30年度臨床実習(クリニカルクラークシップ)における週間予定等について(照会)(H29.10.16)
H30 (2018)	(1)シミュレーション教育を臨床実習後半に組み込んだプログラムを医師キャリアパス創造センターが中心となって実施予定となった。これにより学生はより充実したシミュレーション演習を経験することが可能となった。(資料23) (2)クリニカルクラークシップ指導者である臨床教育医長に対する管理では、医師キャリアパス創造センターが主催する臨床教育医長会を年に2回開催し、学生が臨床実習中に経験している症候・疾患の情報を共有した。(資料24) (3)附属病院初期臨床研修センターが主催する学生対象のシミュレーション教育(ハンズオンセミナー)に医師キャリアパス創造センターが参加し、医学生に必要な医行為に基づくシミュレーション教育を実施した。(資料25)	(1)クリニカルクラークシップ責任者及び指導者の質の担保のための医学科の規約制定等、組織だった管理体制を整備することを検討する。 (2)シミュレーション教育の機会を計画的に拡大し実施することを検討する。	資料23:2020年選択制臨床実習時間割 資料24:平成30年度臨床教育医長会第一回(H30.6.8, H30.6.12)、第二回(H31.3.12, H31.3.13)次第 資料25:平成30年度ハンズオンセミナー資料(H30.6.23)
H31 (2019)	(1)シミュレーション教育をプレ臨床実習と、臨床実習後に組み込んだ。これにより学生はより充実したシミュレーション演習を経験することが可能となった。(資料4)、(資料5) (2)クリニカルクラークシップ指導者で構成される臨床教育医長会の規約制定等を行い、臨床実習後OSCE委員会を兼ねることとなった。臨床教育医長会を年に2回開催し、学生が臨床実習中に経験している症候・疾患の情報やmini-CEXについての情報を共有している。(資料23)、(資料24)	今後とも継続的に見直していく。(終了)	資料4:2019年プレ臨床実習カリキュラム 資料5:2019年臨床実習後シミュレーション実習プログラム 資料23:平成31年度臨床教育医長会次第 資料24:臨床教育医長会(臨床実習後OSCE委員会)規約

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
6. 教育資源	6. 2臨床実習の資源	判定 : 適合

改善のための示唆

・シミュレーターの統合的な運営管理およびそれを用いた教育プログラムの一層の開発が望まれる。また、シミュレーション教育のための技術支援、補助要員の配置が望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) シミュレーターを用いた教育プログラムをキャリアパス創造センターが中心となって開発し、来年度から臨床実習の後半に、学生に提供する予定である(資料)。	(1) 複数個所に管理されている全シミュレータ機器をオンラインで予約するシステムの整備予算を学内基金に要請しており、その統括部所を検討する。 (2)シミュレーション教育に参画するための人員確保を検討している。	
H30 (2018)	(1) シミュレーターの運営は、利用者の利便性のために、管理部署ごとに管理している。(資料25) (2) 附属病院初期臨床研修センターが主催する学生対象のシミュレーション教育(ハンズオンセミナー)に医師キャリアパス創造センターが参加し、医学生に必要な医行為に基づくシミュレーション教育を実施した。(資料25) (3) シミュレータ教育の充実などを目的に医師キャリアパス創造センター教員を増員した。(資料26)	(1) シミュレーターを用いた教育プログラムをキャリアパス創造センターが中心となって開発し、来年度から臨床実習の後半に、学生に提供する予定である。 (2) 複数個所に管理されている全シミュレータ機器をオンラインで予約するシステムの整備予算を学内基金に要請し、その統括部所を検討する。 (3)シミュレーション教育に参画するための人員確保の検討を継続する。	資料25:平成30年度ハンズオンセミナー資料(H30.6.23) 資料26:キャリアパス創造センター 教員採用1)H30第8回医学部教授会, 医学薬学研究部医学系教授部会議事要録(H30.7.25)
H31 (2019)	(1) シミュレーターの予約カレンダー、申請書を共有し、オンラインで一括管理する体制とした。(資料2) (2)部局長リーダーシップ支援経費「学部プロジェクト推進経費」取り組み名 医療系学生に対するシミュレータ学修推進プロジェクトによって、自動開錠、監視(見守り)カメラ、共有予約カレンダーが設置され、統合的な運営管理が容易になった。(資料6)	今後とも継続的に見直していく。(終了)	資料2:医師キャリアパス創造センター三部門の行事、シミュレータ共有カレンダー 資料6:部局長リーダーシップ支援経費「学部プロジェクト推進経費」成果報告書

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
6. 教育資源	6. 4 医学研究と学識	判定 : 適合

改善のための示唆

・研究医養成プログラムにおける学生の成果について他の学生、教員への広報・周知が望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・富山大学医学会誌に研究医養成プログラムにおける学生の成果を掲載し公表した。(資料33)	・今後も研究医養成プログラムの成果についての広報・周知を継続する(終了)	資料33:研究医養成プログラム学生報告書 権本昌寛「登校回避感情の関連因子:文部科学省スーパー食育スクール事業の結果から」『Toyama Medical Journal Vol.27 NO.1 2016』より

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
6. 教育資源	6. 5教育専門家	判定 : 適合

改善のための助言

医学教育の専門家以外にも、学内の教育学専門家、学外の医学教育の専門家も有効に活用すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医学部FDにおいて 学外専門家による講演を行った。(資料14)	・今後は学内の教育学専門家との交流 も深めていく。(終了)	資料14:平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
6. 教育資源	6. 6教育の交流	判定 : 適合

改善のための助言

海外留学の体験を他の学生、研修医、若い医師に広報・伝達する機会を大学が準備すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 6年生の選択制臨床実習で海外で実習した者の体験報告会は医師キャリアパス創造センターが開催し、後輩を含めた若手医師へ伝えている。またその体験は例年通り、富山大学医学会誌に掲載される予定である(in press)。(資料34)、(資料36) (2) 平成29年12月13日(水)、14日(木)Mount Sinai Hospitalから卒業生を招聘し、附属病院総合診療部主催で国際教育セミナーが開催された。(資料35)	・大学が主催となって、海外留学の体験を広報・伝達する仕組みを今後も進める(終了)。	資料34:海外選択制臨床実習報告会(H29.7.26),(H30.7.18)開催案内ポスター 資料35:植村健司先生講演会ポスター 2017年12月13日(水)臨床留学について、14日(木)米国の老年医療と緩和医療 資料36:学生海外研修レポート 平成29年(2017年)の選択制臨床実習の海外コースの報告(『Toyama Medical Journal』2017掲載予定)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
7. プログラム評価	7. 1プログラムのモニタと評価	判定 : 部分的適合

改善のための助言

・カリキュラム全体を見直すプログラムを拡充し、教養教育、基礎医学教育、臨床医学教育カリキュラムの主要な構成要素を6年間全体でモニタすべきである。特に、学体系別に行われている基礎医学教育の重複、欠落など内容の精査を行うべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師キャリアパス創造センターで資料を解析し、医学科FDでその内容を共有した。 ・平成29年度から授業スライドやプリントなどの配付資料を学務課で収集を開始し、モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版を基準に、医師キャリアパス創造センター医学教育部門で内容の精査を開始し、重複をチェックしており(資料4)、医学部FDにて情報共有を行っている(資料5)。また、臨床実習IRの結果を、臨床教育医長会でフィードバックし、実習における過不足についても情報共有がなされている(資料)。臨床統合科目として、平成29年度の3年次生の統合型学修科目「臨床医学統合」を実施しており、カリキュラム全体を見渡し、コミュニケーション能力、情報収集などの能力向上を図っている。 	<p>現状に加え平成28年度改定版モデル・コア・カリキュラムに準じた授業内容を欠落・重複の有無を医師キャリアパス創造センターでモニターする。</p>	<p>資料4:平成28年度第14回医学科教務委員会議事要録(H29.3.16)と資料:授業用プリント提供のお願い 資料5:平成29年度第4回医学部医学科FD”インスティテューショナル・リサーチ(IR)”資料(H30.2.7)</p>
H30 (2018)	<ul style="list-style-type: none"> (1)平成30年度第1回富山大学医学部医学科FDを実施し、富山大学医学部分野別評価報告書に基づく卒前教育の改善計画受審の振り返りと認定更新に向けた対応にて情報共有を行った。(資料2) (2)コンピテンシー作成に関するFDを実施した。(資料3) (3)臨床実習IRの結果を、臨床教育医長会でフィードバックし、実習における過不足についても情報共有を行った。(資料24) (3)臨床統合科目として、平成30年度の3、4年次生の統合型学修科目「臨床医学統合」を実施しており、カリキュラム全体を見渡し、コミュニケーション能力、情報収集などの能力向上を図っている。(資料27) 	<p>(1)引き続き、平成28年度改定版モデル・コア・カリキュラムに準じた卒業試験の欠落・重複の有無を医師キャリアパス創造センターでモニターする。</p>	<p>資料2:平成30年度第一回医学科FD”富山大学医学部分野別評価報告書に基づく卒前教育の改善計画”(ポスター)(H30.7.6) 資料3:平成30年度第三回医学科FD”コンピテンシーを策定する”(ポスター)(H31.2.6) 資料24:平成30年度臨床教育医長会第一回(H30.6.8, H30.6.12)、第二回(H31.3.12, H31.3.13)次第 資料27:臨床統合科目資料</p>
H31 (2019)	<ul style="list-style-type: none"> (1)コンピテンシー評価に関するFDを実施した。(資料25) (3)臨床実習IRの結果を、臨床教育医長会でフィードバックし、実習における過不足についても情報共有を行った。(資料23) (3)臨床統合科目として、平成31年度の3、4年次生の統合型学修科目「臨床医学統合」を実施しており、カリキュラム全体を見渡し、コミュニケーション能力、情報収集などの能力向上を図っている。(資料3) 	<p>今後ともカリキュラム全体をモニターするIR活動を継続する。(終了)</p>	<p>資料3:富山大学医学部規則 別表第2~3 医学部医学科専門教育科目年次別配当 資料23:平成31年度臨床教育医長会次第 資料25:平成31年度第一回、2回医学科FD</p>

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
7. プログラム評価	7. 1プログラムのモニタと評価	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

富山大学の社会的責任が何であるのか、十分な議論を行うことが期待される。例えば、地域医療、国際貢献、富山の伝統的医薬学などについて議論を深めていくことが期待される。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・富山の特色ある授業科目として、4年次に新設される「富山医療学」、「神経・脳科学」科目のシラバスが作成された。(資料37)、(資料38)	・富山大学医学部コンピテンシーを策定し、富山大学独自の教育内容を明確にする。	資料37: 富山医療学のシラバス 資料38: 神経・脳科学のシラバス
H30 (2018)	(1) 富山大学医学部コンピテンシーを策定し(資料) 富山の特色ある授業科目として、4年次に「富山医療学」、「神経・脳科学」を実施した。(資料3)、(資料12)	富山大学独自の教育内容についてさらに議論を深める。	資料3: 平成30年度第三回医学科FD「コンピテンシーを策定する”(ポスター)(H31.2.6) 資料12: 富山医療学シラバス
H31 (2019)	(1) 富山大学医学部コンピテンシーを策定し富山の特色ある授業科目として、4年次に「富山医療学」、「神経・脳科学」を継続している。また「富山医療学」の中でイタイイタイ病資料館の見学を行った。(資料25)、(資料26)	今後も教育内容について継続的に見直していく。(終了)	資料25: 平成31年度第一回、二回医学科FD 資料26: 富山医療学シラバス、授業評価アンケート

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
7. プログラム評価	7. 3学生と卒業生の実績	判定 : 部分的適合

改善のための助言

・設立された医師キャリアパス創造センターが卒後臨床研修センターや同窓会等と協働して卒業生の業績を収集・解析し、教育プログラム改善のために必要な部署へフィードバックすべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・医師キャリアパス創造センターは附属病院の臨床研修部とも緊密に情報を共有し、卒前教育と卒後臨床研修、専門医研修のシームレスな教育を提供するための体制を整備中である。また、医学部同窓会とも協働して卒業生の動向を把握し卒前教育内容へのフィードバックをするための体制作りをした。(資料8)、(資料9)、(資料10)、(資料11)、(資料14)、(資料21)	・今後、卒業生の業績、キャリアパス等の情報収集と解析を医師キャリアパス創造センターと各組織が協働するように検討する。	資料8:「本学医学教育改善のため医学教育分野別評価を受審して思うこと。同窓会員の皆様へお願い」富山大学医学部同窓会報(27号2018)北島勲医学部長 資料9:医師キャリアパス創造センター組織図 資料10:平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22) 資料11:臨床研修部名簿 資料14:平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7) 資料21:同窓会職掌分担
H30 (2018)	(1)医師キャリアパス創造センターは附属病院の臨床研修部、専門医養成部門と定期的な運営会議にて情報共有を行い、卒前教育と卒後臨床研修、専門医研修のシームレスな教育を提供する体制を整備中である(資料)。また、医学部同窓会とも協働して卒業生の動向を把握し卒前教育内容へのフィードバックをするための体制作りをした。(資料4)	(1)医師キャリアパス創造センターの3部門にわたるメーリングリストや、共有カレンダーを運用するなど、更なる情報共有方法を検討する。 (2)卒業生の業績、キャリアパス等の情報収集と解析を医師キャリアパス創造センターと各組織が協働するように検討する。	資料4:富山大学医学部同窓会報(2019. 第28号)34ページ
H31 (2019)	(1)医師キャリアパス創造センターは附属病院の臨床研修部、専門医養成部門と定期的な運営会議にて情報共有を行い、卒前教育と卒後臨床研修、専門医研修のシームレスな教育を提供する体制を構築し運用している(メーリングリスト運用と、会議議事録共有)。(資料1)	(1)医師キャリアパス創造センターの3部門で、全学の卒業生アンケート結果の情報を参考に、卒業生の業績を解析し、教育プログラム改善のために必要な部署へフィードバックする計画を検討する。	資料1:医師キャリアパス創造センター三部門の会議議事録

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
7. プログラム評価	7. 3学生と卒業生の実績	判定 : 部分的適合

改善のための示唆

・入学選抜方法別に卒業生の業績をモニタすることが望まれる。
・学生の学習の進歩, 人間としての成長などをモニタし, その分析結果を入学試験, カリキュラム立案, 学生カウンセリングの委員会が活用し, 確実な教育プログラムの改善を目指すことが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・富山大学附属病院地域医療総合支援学講座では、地域枠、特別枠入学学生の卒後の情報を取得し始めた。(資料39)	医師キャリアパス創造センターのIR活動を通して、入試委員会、カリキュラム委員会、医学科教務委員会等が活用し、確実な教育プログラムの改良を継続する。	資料39: 寄附講座の概要【地域医療総合支援学講座(富山県出資)】
H30 (2018)	(1)富山大学附属病院地域医療総合支援学講座では、地域枠、特別枠入学学生の卒後の情報を取得の継続を行っている。 (2)臨床実習中の医学生の実態を含む自己、指導者評価を解析し、その分析結果をフィードバックしている。(資料28)	(1)臨床実習中の医学生の実態を含む評価を医師キャリアパス創造センターのIR活動を通して、入試委員会、カリキュラム委員会、医学科教務委員会等が活用し、教育プログラムの改良を行う方法を検討する。	資料28: 臨床実習中の医学生の実態を含む自己指導者評価を解析し、その分析結果(IR資料)
H31 (2019)	(1)富山大学附属病院地域医療総合支援学講座では、地域枠、特別枠入学学生の卒後の情報を取得の継続を行っている。(資料27) (2)地域枠、特別枠の在校生全員に対して面接を行っている。(資料27) (3)臨床実習中の医学生の実態を含む自己、指導者評価を解析し、その分析結果のフィードバックを継続している。(資料28)	(1)医師キャリアパス創造センターの3部門で、卒業生の業績を収集・解析し、教育プログラム改善のために必要な部署へフィードバックする計画を検討する。	資料27: 地域枠、特別枠学生面談マニュアル 資料28: 臨床実習中の医学生の実態を含む自己指導者評価を解析し、その分析結果(IR資料)

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
8. 統括および管理運営	8. 1 統括	判定 : 適合

改善のための助言

- ・教養教育と専門教育との関係を明記し、連携を推進すべきである。
- ・教育における大学と病院とを連携する仕組みを明記すべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	(1) 教養教育から専門教育までの各教育科目の関係を一覧表示するカリキュラムマップを作成することで、教養教育と専門教育との関係を明記した。(資料22) (2) 医師キャリアパス創造センターの設置目的には、卒前から卒後の医学教育の整合性を高める目的が含まれており、教育における大学と病院を連携する仕組みはできている。(資料9)	・今後とも適宜見直す(終了)	資料22: 富山大学医学部医学科カリキュラムマップ(平成30年度入学者用) 資料9: 医師キャリアパス創造センター組織図

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	基本的水準
8. 統括および管理運営	8. 2 教学のリーダーシップ	判定 : 適合

改善のための助言

医師キャリアパス創造センターの活動をさらに充実させ、医学教育の継続的改良につなげるべきである。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	<p>医師キャリアパス創造センターの業務の実質化を図った。(資料9)</p> <p>(1) 医学科教務委員会やカリキュラム委員会、臨床教育医長会と連携することにより医学教育の統括と評価、及び医学教育担当者の人材育成を統括している。(資料10)</p> <p>(2) 附属病院の臨床研修部とも緊密に情報を共有し、卒前教育、卒後臨床研修、専門医研修を通してシームレスな教育を提供するための体制を整備した。(資料11)</p> <p>(3) 医学部同窓会とも協働して卒業生の動向を把握し卒前教育内容へのフィードバックをするための体制作りをした。(資料21)</p> <p>(4) Active learning、e-learning、統合的授業の促進においても中心的な役割を担い、その整備に努めている。(資料14)</p> <p>(5) 臨床実習開始前の‘共用試験’や、臨床実習後OSCEの企画やIR活動もセンターが中心となって関与し、卒前教育の改良を継続的に実施することとなった。(資料13)、(資料18)</p>	<p>今後、さらに活動を充実させ、医学教育の継続的改良につなげる(終了)</p>	<p>資料9: 医師キャリアパス創造センター組織図</p> <p>資料10: 平成29年度臨床教育医長会資料(H29.11.21及び22)</p> <p>資料11: 臨床研修部名簿</p> <p>資料13: 臨床医学統合授業 リハーサル参加へのご依頼、グループ学習について</p> <p>資料14: 平成29年度FDポスター、FDアンケート集計 第1回(H29.7.6)、第2回(H29.9.28)、第3回(H29.12.1)、第4回(H30.2.7)</p> <p>資料18: グループ学習について、2018年グループ学習日程表</p> <p>資料21: 同窓会職掌分担</p>

医学教育分野別評価 富山大学医学部医学科 年次報告書
2020年度

(評価受審年度 2015 (平成27) 年)

項目	評価項目	質的向上のための水準
8. 統括および管理運営	8. 2 教学のリーダーシップ	判定 : 部分的適合

改善のための助言

医学部の使命と学生の達成度を指標に、教務委員会およびカリキュラム委員会を定期的に評価する仕組みを作ることが望まれる。

年度	改善状況/現在の状況	今後の計画	改善状況を示す根拠資料
H29 (2017)	・カリキュラム委員会の充実を図り、学生意見の集約を行い、教務委員会を介して情報共有する仕組みを構築した。(資料7)、(資料40)	・医師キャリアパス創造センターのIRを活用して委員会自体を定期的に評価する仕組みを検討する。	資料7:平成29年度第1回医学部医学科カリキュラム委員会(H30.3.15)次第、議事要録、資料 資料40:平成29年度第16回医学科教務委員会議事要録(H30.3.22)
H30 (2018)	(1)カリキュラム委員会を実施し、学生意見の集約を行い、教務委員会と医学科運営会議で情報共有した。また、学生からの教育環境整備の要望について予算の範囲で対応した。(資料29) (2)教務委員会の1年間の活動について、教務委員会と医学科運営会議で振り返りを行った。(資料30)、(資料31)	(1)委員会の活動については、情報共有と振り返りを行っている。委員会自体を評価する仕組みを検討する。	資料29:平成30年度第1回医学部カリキュラム委員会議事要録(H31.3.14) 資料30:平成30年度第13回医学科教務委員会資料(H31.3.22) 資料31:平成30年度第13回医学部医学科運営会議(H31.3.27)
H31 (2019)	(1)毎年3月に開催しているカリキュラム委員会だが、今年度は新型コロナウイルスの感染対策のため、開催を延期した。カリキュラム委員会の意見について教務委員会と医学科運営会議での情報共有は委員会開催後、継続して実施する予定である。	委員会自体を評価する仕組みを検討する。	